

# こども通信

## 塚田こども医院

小児科・アレルギー科  
漢方内科

上越市栄町 2-2-25  
TEL 025-544-7777(代)  
025-544-7779(保育室)  
FAX 025-544-8456

ホームページ  
www.kodomo-  
iin.com



春がやってきました。桜が終わり、緑豊かな風景が広がっています。

でも、この春もわずか。夏がもうすべやってきました。今年の夏はどうかな？ 心配です。

\* \* \*

百日咳の流行が始まりました。全国的にはすでに流行がありますが、県内では新潟市を中心に発生。次第に上越地域にやってきました。



の高学年からは百日咳が流行する可能性があります。治療は、早く百日咳を見つけて、それに合う抗菌薬を的確に使うことです。

こと。しかしこれが難しいのです。百日咳と分かるのは咳がひどくなつてから。そこから治療しても咳の期間が短くなるわけではないのです。

百日咳はその名の通り、百日の間(約3か月間)特徴的で激しい咳発作が続きます。乳児では咳発作のために無呼吸を起こし、死に至ることもありま。

ワクチンのない時代には年間10万人以上がかかり、そのうち10%は死亡。ワクチンができたことで、国内の患者は2百人台まで減少していま

す(その後、ワクチンの副反応が問題になり、一時中断。その後新しいワクチンができました)。

しかし、ワクチンの効果が5〜10年。それ以降になると百日咳にかかることがあります。つまり、小学校

カタル期という、症状がまだはつきりしないうちに抗菌薬を使用するのが一番効果的。周囲に百日咳が流行している場合に、早めに対処した

新しい感染症の発生がないかを見るということですが、いきなり多く患者が出ることはないでしょう。少ない患者であれば、その中に埋もれてしまいます。

と思います。

\* \* \*

国は急性呼吸器感染症の統計を取るようになりまし。咳、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれかをもち、感染症と思われるものを受診の度に報告するものです。

当院のような小児科外来では、その数はめちゃくちゃ多いです。一日で百を超えるでしょう。

一方で、効果は疑問符が付きます。

質的に異なるものを抽出する方法が必要なのですが、今回のような量的な捉え方をする方法は、残念ながら失敗するでしょう。

当院は負担の大きさを考え、この事業に不参加としました。

## 感染症情報

インフルエンザの流行は当地では終息しました。

新型コロナウイルスは少ないながら、まだ流行しています。引き続き注意してください。

感染性胃腸炎の発生が続いています。吐いたり下痢をしたりする感染症で、嘔吐が強いと脱水や低血糖になることがあります。小さなお子さんでは注意が必要です。

RSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症の流行も続いています。いずれも気管支炎を起こすウイルスで、繰り返しかかることがあります。

プール熱(アデノウイルスによる咽頭結膜熱)の発生が少しあります。溶連菌感染症も時々発生があります。いずれも喉の痛みが特徴です。

百日咳が新潟県内で大きな発生があります。新潟市が中心ですが、次第に周囲に広がっています。上越地域でも少数ですが、発生しています。小学生以上はワクチンの免疫が減少し、かかることがあります。咳き込み発作が特徴です。万一かかっても、乳児に移さないようにしてください。乳児の百日咳は死亡することもあり、重症になります。

麻疹(はしか)も国内で発生があります。2回のワクチン接種でからなくなるはず。生後1歳になったらワクチンを早めに受けるようにしてください。

実践

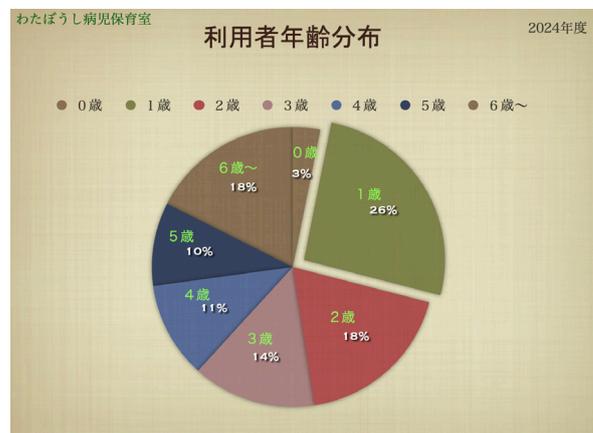
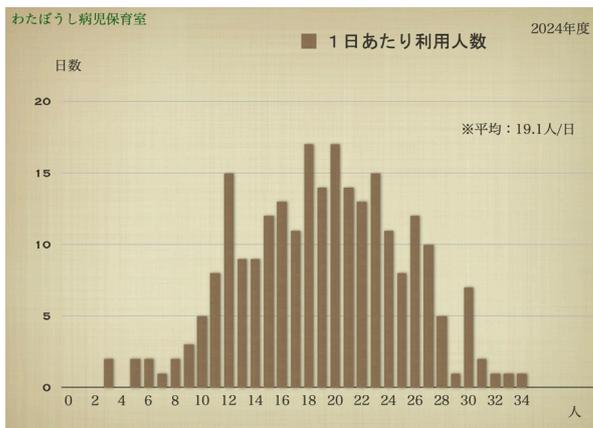
# わたぼうし病児保育室

前回、私が「地域医療貢献奨励賞」を受賞したことを書きました。その受賞理由の最も大きなことは「わたぼうし病児保育室」だと思っています。開設から24年余の実績が積み重なったものです。

ここでは病児保育室の開設から、現在の状況について、簡単にお話をします。

## ●開設から現在の運営

当院がわたぼうし病児保育室を開設したのは2001年6月。ちょう



ど21世紀が始まった年です（当時、21世紀は子どもの世紀だと言われていました）。

利用者数は少なく、本当に需要があるのか疑問に思う時もありましたが、時とともに増えていきました。当初は医院2階の空いている部屋を使っていましたが、3年が経ち、手狭になったことから新園舎を建設しました（今の建物です）。

独立採算性は取らず、経費は医院全体で賄うものとなりました。結果、赤字が次第に膨らみました。保育士の人件費が主な支出です。その額は年に1〜2千万円。累計が1億円を越えることから苦しくなりました

（苦笑）。

2009年、上越市が病児保育事業を開始することになり、早速受託することになりました。

これは国の事業で、国・県・市町村が3分の1ずつの負担をしています。これで十分に賄えると思ったのですが・

国の方針では、年間2千人までの利用を想定。しかし受託を受けた翌年からそれを超え、医院の持ち出しになりました。

数年してから上越市が2千人を上回る分を単独で補助してくれるようになりました（現在は国基準が緩和されています）。

次にやってきたのが2020年の

落ち込みです。新型コロナの流行で、マスク、手洗いなどを徹底したために、他の感染症が激減。病児保育を使う方は非常に少なくなりました。

これにも上越市がすぐに対応。一定の数までは利用があるとみなして助成を確定してくれました（利用が少なくても、保育士は一定数を確保しておく必要があります）。

国の制度を利用していますが、足りない部分を上越市が独自に補助。2度にわたる支援策により、病児保育は持続できています。

## ●病児保育室の現状

1日あたりの利用者数では、ゼロに近い日もある一方、定員の35名に近い日もあります。しかもその数に分かるのは当日前。保育士はその日の保育をどのように作るか、毎日「綱渡」の状態です。

年齢別で最も多いのは1歳（約4分の1）。いわゆる未満児で半数を占めています。とんでも手のかかる年代です。保育士さん、ご苦労様です！